

コンパクト、スポーティー、ハイテクの三拍子が揃った型破りなSUV

昨年、アウディのQファミリーに加わったQ2は、野性味と若々しさを融合したデザイン、パワフルかつ燃費効率に優れたエンジン、スポーティーで機敏なハンドリング、機能的で多様な装備など、数々の先進テクノロジーを備えたコンパクトSUV。今回は、そんなAUDI Q2をAUDI京都のベテランメカニック北尻氏が徹底解説します。

Supervise: Yuichiro Ohara



小原 裕一郎 Yuichiro Ohara
モータージャーナリスト/マーケティングコンサルタント(フリーランス)
ビデオリサーチャー → ニールセン → Yahoo! Japanを経てフリーランスに転身。マーケティングや広告が本職だが、1990年代からモータージャーナリストとしても活動しており、とりわけ4WDやSUVには造詣が深い。

エクステリアデザイン

Q2は全体的にスクエアでエッジの効いたシルエットになっており、ポリゴン(多角形)をモチーフにしたデザインが特徴です。サイドビューで印象的なのはクーペを思わせるルーフラインです。

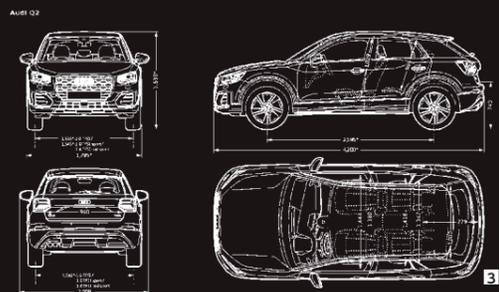
スポーツラインのモデルでは、ピラーに設置されたボディと対照色のブレードが、とりわけ力強いアクセントとなっています。さらに、ボディとガラス面との比率はおよそ2対1で、アウディ伝統のデザインを踏襲しています。

ボディサイズ

全長4200mm、全幅1795mm、



1 前後のホイールアーチは凹面プレスによって強調されており、Quattro(4WD)の系譜であることが示唆されている。
2 リアは力強いアーチ型をしたバンパー、アンダーボディプロテクション風のディフューザーなどで力強さが演出されている。



3 Qファミリーの中では最小サイズであるため、街中もキビキビ走ることが可能。立体駐車にも対応している。

ボディ構造

Q2のセーフティセル(ボディシェル)は、熱間成形の超高張力鋼板の全体の22%も使用して、極めて高いねじり剛性を達成しています。この結果、3気筒1.0 TFSIエンジンを搭載したQ2にも搭載可能になりました。

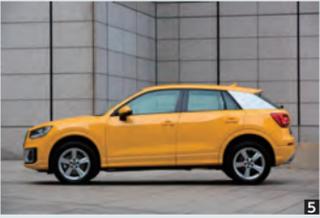
Nm以下の運転領域およびエンジン回転数1400~3200rpmでコースティング(情性)走行をしている時は第2、第3シリンダーが休止する仕組みです。



10 従来から好評を得ていた7速SトロニックAT。マニュアル操作にも対応しており、モードもDとSの2種類から選択可能。



4 軽量で高いボディ剛性により、スポーティーなハンドリングと快適な乗り心地の両立が可能になっている。



5



6



7

5 Cd値は0.3とSUVとしてはベストな値。ホイールの前や燃料タンクなどにも小型スポイラーを設置し、空力アップに努めている。
6 写真は、あらゆる情報を12.3インチのTFTディスプレイに映し出す「オーディオバーチャルコックピット(オプション)」の装着車。
7 ラゲージルームは405ℓの大容量を確保。オプションでパワーテールゲートを装着することも可能だ。

エンジンを搭載したモデルの重量は、1205kg(欧州仕様値)とSUVとしては大変軽量となっています。さらに、Aピラー、Bピラー、ルーフライン、フロアなどを補強することで、万一事故に遭遇したときの乗員保護能力を高めています。

エアロダイナミクス

空力特性はSUVとしてはベストのCd値0.3を実現しています。具体的には、エアインレットとCピラーのブレードを力的な観点から形状を最適化。ルーフラ後のスポイラーは、後方に長く伸ばすことによって、エアがボディ後方にきれいに流れるように考慮されています。また、アンダーボディも丁寧にパネルで覆うなど、様々な観点から乱流の発生を抑えています。

インテリア

Q2のインテリアは素材の選択、丁寧な作り、タイトで均等な隙間など、どの部分をとってもプレミアムカーとしての資質を持っています。また、すべてのボタンや操作類が、パネルと隙間なく組み付けられており、その動きも正確。操作時のクリックサウンドは、完璧を目指すアウディの取り組みを音で表現したものとされます。

ラゲージコンパートメント

サイドウォールは完全にフラットな設計になっており、フロア高も740mmと低めで、荷物の積み降ろしが容易な設定になっています。リヤサスペンションのスプリングとダ



8



9

8 999cc直列3気筒DOHCインタークーラー付ターボエンジンは、85KW(116PS)の最高出力と200Nm/2,000~3,500rpmの最大トルクを発生。
9 1,395cc直列4気筒DOHCインタークーラー付ターボエンジンは、110KW(150PS)の最高出力と250Nm/1,500~3,500rpmの最大トルクを発生。

3気筒1.0 TFSIエンジン

3気筒ならではのコンパクト設計に加え、アルミ製クランクケースの採用などで、エンジン単体の重量をわずか88kgに抑えています。また、大きな負荷領域で卓越した燃費効率を得るために、インタークーラーとエキゾースト側のカムシャフトは、クランクシャフトの回転角にして、それぞれ50°、40°の範囲で調整できるようにしています。

4気筒1.4 TFSIエンジン

このエンジンは、燃費の向上に大きく貢献するCOD(シリンダーオンデマンド)システムを搭載していることが特徴。エンジン負荷100

7速SトロニックAT

Q2に搭載されている7速ATは、2つのクラッチを備えたドライタイプ(乾式)で、重量は70kgという軽量タイプです。Sトロニックはドライバーの多様なニーズに対応しており、自動変速で走ることもできれば、セレクトレバーを操作して積極的にマニュアル変速を楽しむこともできます。

エンジンのパワーは3つのシャフトを介して伝える構造になっており、このレイアウトのお陰でトランスミッションの全長を短くすることができたので、直列4気筒エンジンを横置きしたQ2にも搭載可能になりました。

北尻氏による Audi Q2の総評

Q2は、コンパクトな特徴を生かして抜群の取り回しの良さと、数々の先進機能を搭載したプレミアムコンパクトSUVです。A1では小さ過ぎるし、3ドアだから不便と感じている方にとって、5ドアのQ2の車内は広く、使い勝手も良いと感じていただけるクルマです。これを機に、ぜひお近くのマシマAudi店へお越しください。Q2の魅力を実感してみてください。



北尻オススメポイント

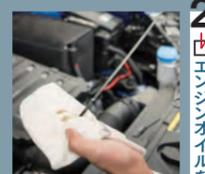
アウディQ2の魅力は、なんといってもこのデザイン。直線を多用した多角性が魅力的です。女性や若い人が乗って楽しい車ではないでしょうか。SUV車には重厚な乗り心地のものが多いのですが、このQ2はきびきびした走り、とても良いですね。僕がキャッチフレーズをつけるとすると、「可愛いけど、カッコいい車。」ですね。

北尻伝幸(きたじり のりゆき) — マシマに2005年入社、13年のキャリアを有するベテランメカニック。趣味はバス釣り、サーフィンなどとするアクティブなアウトドア派だが、5歳、2歳、1歳の三児のお父さんでもあり、今は子育てでも大忙しの毎日を送っているとのこと。



3 冷却水をチェック

タンクに冷却水の最大と最少の量のメモリがついています。この範囲の量が入っていればOK。多すぎたり少なすぎたりしないか、時々確認してみましょう。



2 エンジンオイルをチェック

(写真を参考に)エンジンオイルは、ここまで入っていたらOKです。普段なかなか見ることがないかもしれませんが、気づいた時にチェックしてみてください。



1 タイヤをチェック

タイヤの空気圧は最寄りのガソリンスタンド等で簡単にチェックすることができます。運転席のドアの厚み部分に表示されている、それぞれの車の適正空気圧を参考に、それぞれの車の適正空気圧を参考に、

メカニック・北尻が教えます! 乗る前の3点チェック 快適なドライブのために、乗る前の3点チェックを習慣にしてみてください。